

論壇

教材読み考える時間を

先日、ある大学の学生たちと懇談する機会があった。このご時世であるので実際の面談ではなく、ズームを利用したオンラインの懇談だ。彼らの大学もオンライン授業が中心のようで、朝から夕方までパソコンの画面に向かう日が多く目が疲れて大変だ、という話をしていた。大学のキャンパスに行けないという制約の中でも頑張っているようだ。ただ、この話を聞いていて重要な問題があることに気づいた。

目が痛くなるほど多くの授業を受けているということだ。日によ

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

つては、朝から晩までびっしりとオンラインの授業が入っている日もあるそうだ。「そんなに授業を取っていたら勉強する時間がないではないか」と思わず発言してしまった。真面目に授業を受けている学生に「勉強ができない」というのもおかしい話だが、授業を受けていれば勉強をしている気

是正必要な大学教育

になるといことが問題だと思っ

た。米国の名門大学の学生を見ると、とにかく厚い教科書や教材を読まされる。読まなければいけない教材があまりにも多いので、受けられる授業の数はおのずから限定される。1週間単位で時間をど

こに使っているのかみてみると、教室で先生の授業を聞いている時間よりも、課題の教材を読む時間の方が多いようだ。ただ、こうした時間配分は正しいように思える。教室で話を聞いて知識を増やすよりも、教材をじっくりと読んで自分で考える時間の方が重要であるはずだ。

学問への憧れ生む契機

私がまだ大学生の頃、深く記憶に残っている授業があった。世界的な経済学者の授業であるというので、多くの学生が教室に詰め掛けていた。その先生は、これから話す経済問題の本質を理解するためには、変分法という数学の手法が必要なのでと、やおら変分法の説明を始めた。黒板に膨大な数式を書き説明を始めた。もちろん学生は誰も理解できない。1時間近く数式に格闘していた先生は、突然、説明をやめてしまった。自分自身が式の展開で混乱してしまっただけだ。20分ほど黒板を睨んでじっと考えていたが、今日話したことは忘れてください。次回、また説明します、と教室を去っていった。

この日の授業から私は何の知識も得られなかった。しかし、1時間以上の教壇での先生の奮闘の姿から実に多くのことを学んだ気がする。ひよつとしたら学者の道を歩んでみたいと考えるきっかけの一つになったのかもしれない。内容は理解できなかったが、高度な思考を行う経済学という学問への憧れが生まれたのかもしれない。さっそく、変分法を利用した経済学の本を手に入れ、自分なりに勉強を始めた。自分で学ぶということの重要性が少しだけ分かった気がした。大学に限らず、学ぶということにはこうした面がなくてははいけないと思う。